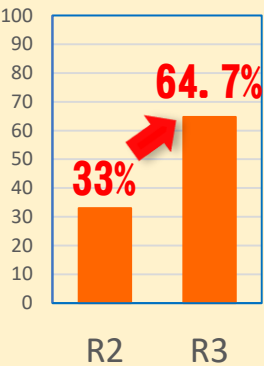


## 1. R3働き方に関する意識調査アンケートの結果

なんと！1日の  
平均在校等時間  
10時間以下  
31.7%増加！！



今年も教育改善プロジェクト委員会では、「働き方改革アンケート」を実施し、前年度の結果との比較、分析を行いました。

始業前1時間以上（3.8%減）、終業後2時間以上（8.1%減）勤務している、また、1日の平均在校等時間10時間以上（33.5%減）の教職員が減少系傾向にありました。時間外勤務削減のための工夫や意識化、協働体制の強化については約8割の教職員から「できている」「どちらかといえばできてる」等の回答を得られました。各校のコアチームの活動により、働き方改革の意識化が進み、「教材準備にかかる時間」も昨年度に比べ増加傾向にあります。

《働き方改革に関する意識調査アンケート》

【項目】北海道の学校における働き方改革手引  
“Road”に準じ、全19問の質問項目を設定

【対象】

R2：小学校119名/中学校 72名/計191名

R3：小学校119名/中学校 61名/計180名

の教職員



## 2. アンケートの分析・考察

<p>質問10 時間外労働を減らす工夫をしている 11%増加 <b>62.8%→74.4%</b></p>	<p>質問12 協働体制が整っている 13.4%増加 <b>55%→68.4%</b></p>	<p>質問15 年休取得や定時退勤しやすい雰囲気である 8.9%増加 <b>73.9%→82.8%</b></p>	<p>「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」を合わせたもので比較しています。</p>	<p>質問7 職場の人間関係でストレスを感じる 4.3%増加 <b>16.3%→20.6%</b></p>	<p>質問8 日常生活や家庭生活を犠牲にしている 9%増加 <b>27.7%→36.7%</b></p>	<p>質問16 今の職場に気軽に相談できる相手が複数人いる 3.1%減少 <b>83.7%→80.6%</b></p>
<p>R2 R3</p>	<p>R2 R3</p>	<p>R2 R3</p>		<p>R2 R3</p>	<p>R2 R3</p>	<p>R2 R3</p>

出退勤時間や時間外勤務の削減等の改善傾向が見られるのに、仕事や人間関係にストレスを感じたり、日常生活や家庭生活を犠牲にしていると感じたりしている教員が増加している実態が明らかになりました。

各学校においてコアチームを中心とした働き方改革を意識した様々な取組が進められ、働き方の工夫が見られたり、時間外勤務を減らそうという意識の高まりがアンケートからも感じられます。

しかし、長引くコロナへの対応、緊急事態宣言等による学校行事等の計画や業務のやり直し、度重なる延期による徒労感、また、ICT等の導入、業務内容の変化がストレスや犠牲を感じる要因となっているのではないのでしょうか。さらに、職場を離れた場所でのコミュニケーションの場の減少により、互いを理解し合える場が少なくなっているとも考えられます。

この現状を改善し、次年度の働き方改革を一步前進させるために、これまで積み重ねてきた教育実践を有効活用し、行事や業務内容の精選を図っていく。また、業務の平準化を推進するとともに、教職員同士が互いに認め励まし合える職場風土の醸成を推進していくことが大切です。

アンケートから  
見られた思い・願い

- 健康や家庭が1番の時代
- コロナにより他機関と連携が取りづらい
- もっと教師としての資質を高めたい
- 長引くコロナ対応
- 度重なる延期による徒労感
- 飲みコミュニケーションも・・・

令和4年度の働き方改革  
Nayoro Star Action  
実践・検証・改善  
(continue to the back side : 裏面へ続く)

### 3. 名寄市働き方改革指標「Nayoro Star Action」

名寄市働き方改革指標「Nayoro Star Action」は、市内各小・中学校の働き方改革推進委員会の取組を基に考えられました。この5つのActionは、市内11校が令和4年度より統一して取組を促進して行く上での指標です。

校種や学校規模に合わせたAction 1～5の取組を展開し、働き方改革の目標達成と教育活動の質の向上を目指します。

#### Action 1 意識改革及び環境構築

- 出退勤管理による在校時間の客観的計測
- 時間を意識した業務の推進及び諸会議の進行
- 年休・休憩等が取得しやすい職場風土の構築

#### Action 2 業務の見直しとマニュアル化

- 業務処理手順の標準化・定型業務の自動化
- スクラップ&ビルト及び教育内容の質的向上

#### Action 3 ICTの効果的な活用

- タブレット端末を有効活用した単元計画の作成
- 学校評価、各種調査等のICT化
- 教材・教具の整理整頓、デジタル化
- スズキ校務支援システムの活用による情報共有

Nayoro Star Action

令和4年度は、この5つのActionをもとに各学校の働き方改革を促進し、市内各小・中学校の効果的な取組をさらに全体に広げられるようプロジェクトを推進していきます。

#### Action 4 地域・関係団体等と連携した教育活動の推進

- スプレッドシート等を活用した職員間・学校間の情報共有
- 地域・関係団体等と連携した街頭指導等の外部化

#### Action 5 部活動指導の負担軽減

(中学校のみ)

- 名寄スタイルに基づく地域部活動への移行推進
- 「北海道の部活動の在り方に関する方針」に基づく、適切な活動日数・活動時間の設定

### 4. 令和4年度の名寄市の働き方改革の方向性

名寄市働き方改革指標Nayoro Star Actionの実践に基づく検証・改善

実践

- 校種・学校規模に合わせた名寄市働き方改革指標「Nayoro Star Action」の実践
- 5つの観点（Action）に合わせて各校のコアチームが中心となり働き方改革を促進

検証

- Nayoro Star Actionの検証
- 教育改善プロジェクト委員会での各校の取組交流・実践評価
- 働き方改革アンケートによる実践の評価

改善

- Nayoro Star Actionの改善
- 各校の実践・評価をもとにNayoro Star Actionの修正
- 令和5年度版Nayoro Star Actionの完成



アクション・プラン（第2期）の期間と目標

期限	令和3年度～令和5年度までの3年間
目標	教育職員の在校等時間から 所定の勤務時間等を減じた時間 <ul style="list-style-type: none"> <li>・1か月で45時間（1年単位的に行うため、学校全体で目標の変形労働時間制を適用する場合は42時間）以内</li> <li>・1年間で360時間（1年単位的の変形労働時間制を適用する場合は320時間）とする。</li> </ul>

月45時間の時間外勤務を達成するためには！？

1月の平均的な勤務日数を20日と考えると、  
 $45 \div 20 = 2.25$   
 時間外勤務を月45時間以内に収めるには終業時刻から2.25時間（2時間15分）以内に退勤する必要があります。  
 16時30分が退勤時間の学校であるなら、18時45分がタイムリミットになりますね。



「7時めし」とは!? 教育経営グループの会議の中では何回か話題に上がっていた取組です。キャッチーなフレーズもさることながら、右の18時45以前の退勤を目指す名寄小学校のユニークな取組です。「毎日午後7時には家に帰って食事がとれるように！」と言う思いがこの「7時めし」に込められています。意識化を促進させる良い取組ですね。